

コード	205020401
記入日	H24.5.31

課コード	118
課名	土木課
課長名	石司 貴英
担当者	道越 昭光

事業評価表【途中評価】

作成年度	平成 24 年度
------	----------

評価対象事業名称	青砂ヶ浦地区急傾斜地崩壊対策事業
----------	------------------

事業種類	継続事業
事業期間	平成 23 年度 ~ 平成 25 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け	
政策コード	2	政策名称	安全、便利、快適な生活環境づくり	款コード	8
施策コード	205	施策名称	安全を実現できる体制づくり	項コード	3
基本事業コード	20502	基本事業名称	治山・治水対策の推進	目コード	1
事務事業コード	2050204	事務事業名称	単独事業費（急傾斜地）	細目コード	1017
関連計画	新上五島町振興計画	法令・条例規則等	急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律		

計画 (PLAN)

※単年度繰返事業については、全体欄を*****とする。

対象：誰、何を対象にしているのか		対象指標：対象の大きさを表す指標				
(対象1) 地区住民		(対象指標1) 10人				
(対象2)		(対象指標2)				
事業の概要：具体的なやり方、手順、詳細を記入		活動指標：事務事業の活動量を表す指標・達成率（上段：全体、下段：評価年度）				
(全体)	(評価年度実績)	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
(全体計画) ・整備延長 L=46.2m ・全体事業費 12,001千円	(平成23年度) ・整備延長 L=33.0m ・事業費 7,001千円	整備延長	33.0m	71.7%	整備延長÷ 計画整備延長	平成25年度
		整備延長	33.0m	71.7%		平成23年度
		① (達成率分析)	本年度の計画延長はL=46.2mとしていたが完成はL=33.0mとなり完成が平成25年度となった。			
		② (達成率分析)				
目的：何をしたいのか		成果指標：目的の達成度を表す指標・達成率（上段：全体、下段：評価年度）				
		(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
・本箇所は、平成元年に緊急急傾斜地崩壊対策事業を施工した区域内で、一部の急傾斜面が未整備となっている。急傾斜地崩壊対策事業により、地区住民の安全・安心の確保を図る。		進捗率	7,001千円	58.3%	事業費÷ 全体計画事業費	平成25年度
		進捗率	7,001千円	100%		平成23年度
		① (達成率分析)	事業着手年度で、測量試験の結果、事業費が増となったが、事業はほぼ計画どおり進んでいる。			
		② (達成率分析)				

実施 (DO)

※単年度繰返事業については、評価終了した年度及び評価年度を記載し、その合計を全体計画欄に記載する。

	単位	全体計画		22年度以前	23年度		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度以降
		計画	実績	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画	計画
活動指標	① m	46.2	33.0		46.2	33.0		13.2			
	②										
成果指標	① %	100	58.3		58.3	58.3		41.7			
	②										
総事業費 C (A+B)	千円	13,401	7,701		7,701	7,701		5,700			
直接事業費 A	千円	12,001	7,001		7,001	7,001		5,000			
人件費 B	千円	1,400	700		700	700		700			
内訳	従事職員数	人	0.2	0.1	0.1	0.1		0.1			
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
Cの財源内訳	国補助金	千円									
	県補助金	千円	6,000	3,500		3,500	3,500		2,500		
	起債	千円	5,300	3,000		3,000	3,000		2,300		
	その他	千円									
一般財源	千円	2,101	1,201		1,201	1,201		900			

評価 (CHECK)

※理由の欄は必ず記載すること。

1 次 評 価	妥 当 生	・時代情勢、社会環境の変化及び住民のニーズなどを考慮しても、事業を継続する必要がありますか。	● ある ない	理 由	急傾斜事業の採択要件を満たしている箇所については、町が行うべきものである。
	有 効 性	・現在の事業の進め方は、期待されるような成果をもたらしていますか。	● いる いない	理 由	事業の途中であるが、計画どおり事業は推進されている。
		・事業の成果をさらに向上させる余地はありますか。	● ある ● ない	理 由	ほぼ計画どおり事業は進捗しているので特別向上させる必要はない。
	効 率 性	・現在の事業は、費用や業務量に見合った活動結果が得られていますか。	● いる いない	理 由	最小の経費で最大の効果をあげる設計で実施している。
		・より少ない費用や業務量で必要な活動結果が得られる手法に代えられませんか。	● 代えられる ● 代えられない	理 由	最小の経費で最大の効果を上げる設計となっている。また、設計の電算化等により省力化を図っており、現在の人員を削減することはできない。

改善 (ACTION)

1 次 評 価	前回の途中評価における「改善策」と「その反映状況」	特になし。
	今後、課題に向けた改善策	特になし。

2 次 評 価	周辺住民の危険防止のため適正な整備を行い、安全・安心な生活環境の確保に努めること。
------------------	---

3次評価 住民等の意見	
町の 対応	

今後の事業 の方向性	1次	2次	3次		1次	2次	3次	
	●	●		このまま事業を継続				類似事業と整理統合
				事業内容を見直して事業を継続				事業の休止
				事業費を見直して事業を継続				事業の廃止

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。